

【全体概要】

本県はグラジオラスの主産地で、県育成オリジナル品種「常陸はつこい」は市場性の高い極早生品種である。5～6月出荷作型の栽培には適しているが、高温に弱く生理障害が発生しやすいため、夏出荷には不向きである。今後品種の普及拡大を図るため、10月以降の抑制作型における安定生産技術を確立する。

新品種・新技術等の概要

【品種特性】

- ・H31年3月に登録となった県育成品種。サーモンピンクの大輪で、黄色のぼかしが入る。
- ・露地季咲で75日、トンネル・マルチ促成栽培で120日程度で開花する極早生品種である。
- ・促成栽培で、ピンク色系の主力品種が出荷される前の5月から出荷が可能であり、有利販売が期待される。



トンネル・マルチ促成栽培の様子 →



常陸はつこい

主な取組内容

10月以降出荷の抑制作型への品種適応性実証

【現地実証試験】

- ・設置場所：土浦市現地ほ場 ・定植：8月17日
- ・球根サイズ：2等級、3等級
- ・対照品種：ハンティングソング、ソフィー

【市場調査】 実需者ニーズの把握

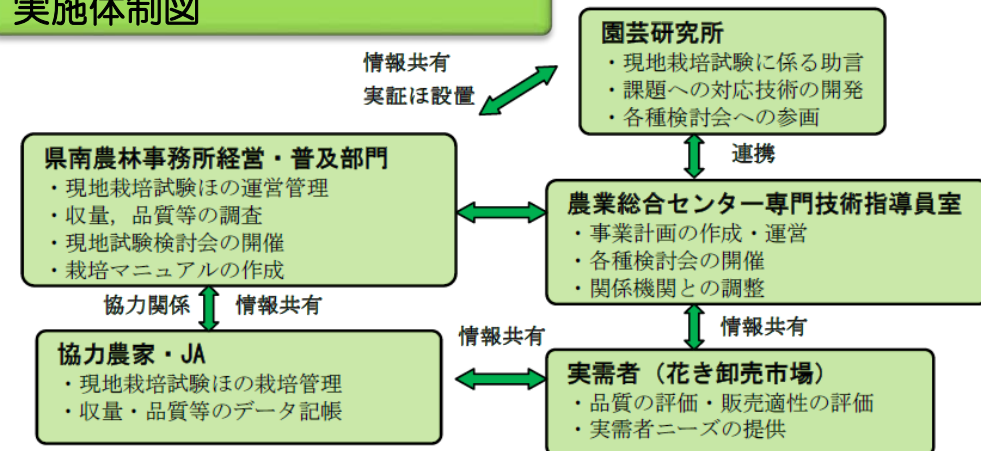
- ・調査市場：(株)大田花き ・期日：10月30日

【栽培マニュアル暫定版の作成】 県内生産者・関係機関へ情報提供



栽培マニュアル暫定版

実施体制図



課題と今後の対応

【実証試験結果まとめ】

- ・8月中旬定植では10月下旬の開花となった。季咲作型と比べると、ボリュームがやや小さくなる傾向が見られた。
- ・6～7月に開花したものより花色が薄くなる点が懸念されたが、市場では問題はないとの評価であった。出荷量の少なくなる11月以降の出荷が有利との意見があった。
- ・球根サイズによる品質の差は認められなかったが、2等級では1球あたりの出芽数が増え、作業性が悪くなるため、3等級の利用が良いと考えられた。

【今後の対応】

- ・現地実証試験を継続し、切花品質向上のため植付け条数を検討する。
- ・結果をとりまとめ経営試算を実施し、栽培マニュアルとして情報提供を行う。
- ・県外産地調査や実需者との情報交換を実施する。